

- 1 事業名 にいみ木にかかわりビトプロジェクト
2 実施期間 令和 2年 7月22日～令和 3年 3月25日
3 事業内容

① 事業の目的・概要

（目的）子どもから高齢者までの多世代の方々が気軽に交流できる機会を、ニーズに合わせて提供することに積極的に取り組み、「木育」活動を通して、森林を身近に感じ、木の持つ魅力を体感してもらおう。新見産材を使った積み木等の遊びのワークショップやものづくりワークショップを実施し、あらゆる世代の木育への理解を深める活動を続けることで、新見が発信する「にいみ木育」を備中圏域、県内、ひいては全国へ普及することを目指す。

（概要） ○新見産材等を活用した木製品の企画や木育活動の実施
○木育の普及・啓発

② 事業の流れ等

○1 新見産材を活用した木製品の企画や木育活動の実施

（1）「ひのきの香り玉プロジェクト2020」

岡山県立健康の森学園と連携して、自立支援活動の一環としてひのきの玉を磨く作業学習に取り組んでいたが、コロナ禍のため、作業時間の確保が困難となり、学校と協議し、休止とした。

既に完成していた160個のひのき玉は、当会の既存の「ひのき玉プール」の中に充当する形をとり、広く乳幼児の遊びに活用している。

（2）新見産材「積み木」の普及活動

①新見産材積み木の普及ワークショップの企画運営

新見産の立体積み木 KUMINO のワークショップを制作者の井上氏を講師として、新見市立新見南認定子ども園で実施した。（9月30日）

②施設への積み木や木のおもちゃ設置

新見市内の木工所や建具屋に依頼して県産材で「ひのきの積み木」を製作し、新見市の新見保育所と草間台保育所に設置した。他園からも強い要望があり、追加製作し、哲多、哲西、神郷、大佐の園にも設置することとした。

設置後も要望に応じて継続的に「ひのきの積み木」を活用したワークショップを実施している。

（3）「木のジャングルジムくむんだー」製作と普及

新見市内の木工作家に依頼して、県産材を使用して、くむんだー1式、ミニくむんだー1式を製作した。損耗した既存のくむんだーの部材のうち、メンテナンスにより使用可能となる部材を修繕した。

「くむんだー」ワークショップを、保育園や小学校を中心に実施した。（9回、参加者560人）

木材を使った伝統工法を伝え、自然環境、森林の保全についての興味、関心を持たせるよう取組んだ。身近に「木」と触れ合える機会として好評であった。

○2 「木育の普及・啓発」

(2) 他地域(備中県民局管内)団体との連携

- ・備中県民局管内の木育関連団体による意見交換会を開催した。(8月21日)
場 所：備中県民局第2庁舎第7会議室
参集者：木育関連団体4団体、備中県民局森林関係各課 12名
- ・岐阜県の木育拠点施設「ぎふ木遊館」から講師を招聘して「木育研修会」を開催した。(12月4日)
場 所：備中県民局別館2F会議室
参集者：当会会員、県、市町村等行政関係者等 15名

「木育」という概念や情報を、岡山県内で「木」や「自然」を対象とした活動や事業を行っている団体や個人で共有していくことの必要性を確認した。

(3) 木育を展開するための人材育成、木育プログラムの開発に向けての検討

幼児、小学生から大人まで多年代を対象として「ものづくりワークショップ」や「移動おもちゃ広場」等を実施した。34回、参加者2,468人の様々な年代の方々との交流となった。(1(3)「くむんだー」ワークショップの回数、人数を含む)

また、これらの取組が「木育プログラム」作成に向けての実践検討となり、乳幼児期から未就学児、学童期、中学生、高校生、大学生への各年代に応じて、基礎的な木育プログラム案が作成できた。

なお、交付申請時に計画していた2(1)「三密を回避したオンラインや紙上での木育普及」については、令和2年春季に新型コロナウイルス感染症の影響で小中学校等が一斉休校となった際に、自宅待機している子供達に向けて、地元ケーブルテレビや新聞紙面を通じての情報発信に取組んでいたが、交付決定(夏季)以降は同様の状況が生じなかったことから実施していない。

また、2(3)①「研修会の実施」については、2(2)「他地域団体との連携」と組み合わせて「木育研修会」等を行った。

③ 成果・効果

新見産材を利活用した活動により、多くの市民が「木」を通しての交流に繋がり、県産材や新見材への理解を深めている。参加者の感想や全体的な様子で、「木」に親しむ暮らしへの強い思いを感じた。

アンケートを実施した結果をみると、年度当初よりも「木育」という言葉が浸透してきている傾向が感じられ、「木と親しみたい」という想いが多く見られた。

0歳児から幼児、小学校の低学年、中学年、高学年、中学生、高校生、そして大学生までの各年代へのアプローチの方法については、概ね木育プログラム化の目処をつけることができた。

地元材の利活用については、作り手が課題であったが、地元の製材業者や加工業者、木工作家との計画的、継続的な連携が生まれつつある。安定したサプライチェーンを作るための他地域との連携も進めたい。

また、多年代を対象として数多くの木育活動に取り組むにあたり、準備、打合、実践を通じて当会会員の木育活動の企画、指導のスキルアップが図られた。

④ 今後の課題・展開等

コロナ禍により、当初予定していた「森のゆうえんち i n にいみ」や「杜の忍者になろう」という親子交流型自然体験活動も中止を余儀なくされた。当会にとっての柱的な事業であったので、次年度には大学生の参画型交流事業として実施していくことを考えている。

県産材を使用した多様な木のおもちゃを新見市内の公共施設に設置することや、施設、店舗等の木質空間化や自然の中の遊び空間づくりに、大学生や子ども達の発想を取り入れることが持続可能な社会の実現へと繋がっていくことを期待している。

「木育プログラム」は、様々な活動の指針となるべきものとして必要で、基礎部分はある程度できたが、検証し、実際に活用してみてもフィードバックをしていく必要がある。まず、新見地域の特性を踏まえた実施可能なプログラムとしていきたい。地域の実情に合わせたプログラム展開を図ることにより、他地域への波及効果も見込まれる。

また、子育て支援、福祉、教育、観光、医療などの各分野の実情に合わせた対応ができるようにプログラムを構築していきたい。

今後も普及啓発等、SNS やマスメディアを活用して、効果的な発信へと繋げたい。

⑤ 県民局と協働した効果及び課題

県民局との協働により、備中県民局管内の「木育」に関わる団体との意見交換ができ、「木育」団体のネットワーク化の第一歩を踏み出すことができた。

倉敷市での都市緑化フェアへの出展により、新見市内の「木育」活動が、県下に広く伝わる機会を得られたことの意義は大きい。他地域からも「移動木のおもちゃ広場」の依頼や「木のおもちゃ」を活用しての事業展開の問合せが増えた。

また、従来は得られなかった高校と連携した活動機会が得られ、当会が意図する各年代を通じた「生涯木育」に近づくことができた。

今後は、建築関係、林業関係、自然保育等、「木」に関わる多種多様な団体や個人とのSDGsをとらまえたネットワーク構築が岡山県の木材普及へと繋がっていくものと考えられる。

県民局、林野庁近畿中国森林管理局や新見市をはじめとする市町村との連携により、具体的な事業の中での協力と模索が図れるように今後も取組んでいきたい。

4 参考事項・資料

写真（データでも提出すること）

当日資料

アンケート結果 他

事業変更計画書

① 団体名	一般社団法人 にいみ木のおもちゃの会		
② テーマ区分	指定テーマ (10)・自由テーマ		
	該当するものを○で囲み指定テーマの場合は番号を記入してください。		
③ 事業名	にいみ木にかかわりビトプロジェクト	④ これまでの採択回数	0 回
④ 現状及び課題	<p>「木のおもちゃ」に関わる会やワークショップの積み重ねにより、当会へのワークショップ等の依頼件数は増えてきている。あらゆる年代の人達が木に関わり、おかやまの木材に親しめていないのが課題である。「木育」体験の提供により地域活性化を図りたい。</p>		
⑥ 事業内容	<p>1 新見産材等を活用した木製品の企画や木育活動の実施</p> <p>(1) ひのきの香り玉プロジェクト2020実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新見産のひのきを使用し、「にいみのひのき玉のプール2500個」として活用する。の完成を目指す。 ・地域の方々と一緒に「ひのきの玉をみがく」という木に触れる体験に取組み、またその木の玉のプールで子どもたちが五感を使って遊ぶことで、地域全体が新見の豊かな森林資源を身近に感じ、各々が木の文化について主体的に考えるきっかけづくりにつなげる。 ・県立健康の森学園（主に中学部）と連携し、「ひのきの玉を磨く」作業学習をとおして、木の温かみ、香りを感じながらこのプロジェクトに参画いただく。き、地域参加を共に推進する。 <p>(2) 新見産材「積み木」の普及活動</p> <p>① 保育所、こども園等で、KUMINO（新見産の立体積み木）を製作している井上氏（滋賀県）によるワークショップを企画、実施する。</p> <p>① 県産材ひのきの積み木や木のおもちゃを市内の保育所福祉施設、事業所、学校、子ども園、図書館、公民館等に設置し贈り、広く市民の方との「木」とのふれあいの場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産材や新見材への理解を深める契機とし、「木」の利活用についての市民の意識調査を行う。まとめた成果を県の木材利活用の推進に活かす。 		

	<p>(3) 「木のジャングルジムくむんだー®」の製作と普及。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校等の課外授業での活動をとおして、新見産材に触れ、木質、温かさなどの魅力を体感し、また釘を使わない伝統技法などを使用して組み立てる技の体験活動を行う。 ・新見独自の教育玩具として、保育所、子ども園を対象として、小型「ミニくむんだー」を製作し、現場の意見を聞きながら改善していく。 <p>2 木育の普及・啓発</p> <p>(1) 「3密を回避したオンラインや紙上での木育普及」の展開</p> <p>・コロナ禍により多くの人が集えない状況の中で、地元ケーブルテレビや新聞、SNSを通じて、森林資源豊かな新見の良さと岡山県産木材の普及に関する情報を発信していく。具体的な内容については、県民局や近畿中国森林管理局森林技術・支援センター(新見市)等と相互の連携を図るほか、新見市のみならず東京おもちゃ美術館や他地域の林業関係、木育関係団体等とも連携を図りながら実施する。</p> <p>・乳幼児からシニア世代まで、様々な年代が木育を体感し、交流できる内容として、年間を通じた情報発信とする。</p> <p>(2) 他地域(備中県民局管内)団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タウンミーティングを実施し、各団体の強み(理念や目的)や弱みを共有し、力を出し合える関係性を構築する。 ・「木育」先進地より講師を招聘し、備中県民局管内の「木育」に対する意識の高揚と各団体とのネットワークを形成する。 <p>(3) 木育を展開するための人材育成、「木育プログラム」の開発に向けての検討</p> <p>① 「木育プログラム」に係る研修会の実施。</p> <p>「木育」の講師を招聘し、会員の「木育」に対する理解を深める。</p> <p>② ものづくりや「移動おもちゃ広場」等ワークショップの実施</p> <p>性別、年齢問わずあらゆる世代へ、木を使った「ものづくり」を身近なものと感じてもらえるため、年齢、経験の違いに対応した「木育プログラム」の構築を模索する。</p>
<p>⑦事業目的 (目指す直接の結果)</p>	<p>子供から高齢者までの他世代の方々が気軽に交流できる機会を、ニーズに合わせて提供することを積極的に取り組み、「木育」活動を通して、森林を身近に感じ、木の持つ魅力を体感してもらう。新見産材を使った積み木等の遊びのワークショップや、ものづくりワークショップを実施し、あらゆる世代の木育への理解を深める活動を続けることで、新見が発信する。</p>

<p>⑧今年度期待される成果 (短期アウトカム)</p> <p>その活動で得られる利益や変化</p>	<p>「木育」の普及啓発の手法の一つとして、「木のおもちゃ」の活用をとおり、木材の良さ、森林の大切さの理解が深まり、木材を使ったものづくり体験の継続が考えられる。様々な活動により、幅広い年代、様々な職種の人材が交流することで「木育プログラム」の構築の模索が図れると考えられる。</p>
<p>⑨将来的に期待される成果 (中・長期アウトカム)</p>	<p>「木育プログラム」の構築は、木材の利活用や森林資源の保全への理解へとつながり、ひいては地域の活性化へとつながる。</p> <p>新見市において発信される新見版「木育プログラム」が近隣市町村へも波及し、地域に木育に対する意識がより深まることで、生活の中に「木」を取り入れる等、県産材の利活用が促進されると期待される。</p>
<p>⑩翌年度以降の事業展開の予定</p>	<p>今年度構築する予定の備中県民局管内の他団体との連携を取り、木育活動の幅を広げていきたい。他市他団体との連携は、各々の得意とする部分を發揮し合い、岡山県の木材普及につながる活動が可能になるものとする。</p>
<p>⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント</p>	<p>当会は、林業、医療関係、教育関係、行政等、多岐にわたるメンバーが在籍し、それぞれが持ち合わせている力を出し合える団体である。当会の「生涯木育」をテーマした活動が全国的に認められ、2年連続「ウッドデザイン賞」を受賞することができた。森林占有率約86%である新見市において、地域の木育への興味関心が必然的に高まり、木育体験や木育自然活動は年々参加者が増えている。さらに子どもを持つ親子だけでなく、幅広い年代の参加も増加してきており、地域に根ざした木育活動団体として認知されてきている。</p>
<p>⑫想定される役割分担</p>	<p>【団体】 各事業の企画、調整、運営、広報。</p> <p>【県民局】 各事業を実施するための他の行政機関との連絡調整や、木育推進のための資料提供。</p> <p>【その他】 木育先進地の木育ネットワークの効果的活用。</p> <p>【理由・期待できる相乗効果】 県民局と協働することで、新見市内にとどまらず広く当会の木育事業を広めることができると考える。</p>

<記入上の注意事項>

- 1 それぞれの項目についてはできるだけ具体的に記入してください。
- 2 「⑥事業内容」欄は、それぞれの活動について課題解決や事業目的における意味・位置づけとともに対象者、実施地域、実施方法なども記入してください。
- 3 継続事業は「⑪事業実施に関連する活動実績・アピールポイント」欄に昨年度までの採択事業の主な実績・成果も記載してください。
- 4 「⑫想定される役割分担」欄は、協働協定書等に基づき提案団体及び備中県民局、その他の役割を記入してください。
- 5 変更部分を朱書き又はアンダーラインにより変更前後が対照できるように記入してください。

日程変更計画表

年月	事業内容	場所	規模等
R2.7 ～ R3.2 R2.9	<p>1 新見産材等を活用した木製品の企画や木育活動の実施</p> <p>(1) ひのきの香り玉プロジェクト2020実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新見産のひのきを使用し、「にいみのひのき玉のプール2500個」として活用する。の完成を目指す。 ・地域の方々と一緒に「ひのきの玉をみがく」という木に触れる体験に取組み、またその木の玉のプールで子どもたちが五感を使って遊ぶことで、地域全体が新見の豊かな森林資源を身近に感じ、各々が木の文化について主体的に考えるきっかけづくりにつなげる。 ・県立健康の森学園（主に中学部）と連携し、「ひのきの玉を磨く」作業学習をとおして、木の温かみ、香りを感じていただく。きながらプロジェクトに参画いただき、地域参加を共に推進する。 	<p>地域の施設等</p> <p>県立健康の森学園 支援学校</p>	
R2.7 ～ 10 R3.3	<p>(2) 新見産材「積み木」の普及活動</p> <p>①保育所、こども園等で、KUMINO（新見産の立体積み木）を製作している井上氏（滋賀県）によるワークショップを企画、実施する。</p> <p>②県産材ひのきの積み木の活用 木のおもちゃを新見市内の保育所福祉施設、事業所、学校、こども園、図書館、公民館等に設置し、広く市民に「木」とのふれあいの場を提供する。</p>	<p>各保育所、こども園など</p> <p>福祉施設、事業所、学校、こども園など</p>	
R2.7 ～ 10 R3.3	<p>(3) 「木のジャングルジムくむんだー®」製作と普及。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校等の課外授業での活動をとおして、新見産材に触れ、木質、温かさなどの魅力を体感し、また釘を使わない伝統技法などを使用して組み立てる技の体験活動を行う。 ・新見市独自の教育玩具として、保育園、子ども園を対象に、小型の「ミニくむんだー」を製作し、現場の意見を踏まえながら改善していく。 	<p>学校、各保育所、こども園など</p>	

R2.8 ～ R3.2	2 木育の普及・啓発 (1) 「3密を回避したオンラインや紙上での木育普及」 ・コロナ禍により多くの人が集えない状況の中で、地元ケーブルテレビや新聞、SNSを通じて森林資源豊かな新見の良さと岡山県木材の普及に関する情報を発信していく。具体的な内容については、県民局や近畿中国森林管理局森林技術・支援センター(新見市)等と相互の連携を図るほか、新見市のみならず、東京おもちゃ美術館や他地域の林業関係、木育関係団体等との連携も図る。 ・乳幼児からシニア世代まで、様々な年代が木育を体感し、交流できる内容として、年間を通して情報発信する。	各メディア、SNS、紙面などにより各家庭	新見地域のケーブルテレビ設置世帯 随時
R2.8 ～ R3.2	(2) 他地域（備中県民局管内）団体との連携 ・タウンミーティングを実施し、各団体の強み（理念や目的）や弱みを共有し、力を出し合える関係性を構築する。 ・「木育」先進地より講師を招聘し、備中県民局管内の「木育」に対する意識の高揚と各団体とのネットワークを形成する。	備中県民局管内	他団体数による
R2.7 ～ R3.2 3	(3) 木育を展開するための人材育成、「木育プログラム」の開発に向けての検討 ① 「木育プログラム」に係る研修会の実施 会員の木育に対する理解を深める。 ③ ものづくりや「移動おもちゃ広場」等ワークショップの実施 性別、年齢問わずあらゆる世代へ、木を使った「ものづくり」を身近なものとして捉えてもらうため、年齢、経験の違いに対応した「木育プログラム」の構築を模索する。	公民館など 公民館、保育所など	随時 1ヶ月に2回 1回 程度 各5～7組

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください（例：〇〇市文化センター、△△市内）。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。
- 4 変更部分を朱書き又はアンダーラインにより、変更前後が対照できるように記入してください。

NO	期日	活 動 名	場 所	内 容	参 加 者	
					内 訳	総数
1 ○	8/7 (金)	「ひのきの香り玉プロジェクト」で、健康の森支援学校の作業見学と指導	健康の森支援学校	実際の授業を見学し、作業の方法についての指導を行う。	子ども 32人 大人 5人 スタッフ 4人	41
				<p>目的 「ひのき」の香り玉づくりを通して、特別に支援を必要とする子ども達と地域の方達との交流の架け橋としていく。</p> <p>内容 健康の森学園の正規な授業の中で、中等部と高等部の生徒が「ひのき玉」を磨く活動を行う。生徒の発達段階や特性に合わせた磨き方を、教育活動の一環の流れとして位置づけてくださっていた。左図は、円柱の筒に玉を入れて磨く。磨いた玉の個数を黄色のマグネットで確認していく教具である。アクリル絵の具での装飾も意欲的に取り組める工夫である。</p> <p>成果と課題 中等部の作業学習は、将来の仕事に直結していくスキルを身に付ける基礎となる活動である。「木」という素材の可能性と特別支援、福祉分野での導入の方法を模索していきたい。</p>		
2 ■ 研	8/21 (金)	備中県民局関係の木育関連団体による意見交換会	備中県民局第2庁舎第7会議室	木育に関わる4団体が参加しての情報交換と共通理解を行った。	子ども 0人 大人 11人 スタッフ 1人	12
				<p>目的 備中県民局管内の「木育」関連団体が一堂に会することにより、「木育」推進のネットワークづくりを図る。</p> <p>内容 高梁フォレストフォーピープル、笠岡ハーモニーネット岡山、倉敷地域森づくりの会、にいみ木のおもちゃの会と備中県民局との意見交換会。各団体の取り組みを発表し、今後の情報の共有や協力の確認をとることができた。</p> <p>成果と課題 初めての会となった。備中県民局管内での活動を有機的に繋げていくために必要な会である。各団体の特徴と活動展開を共有することにより、相互の連携を必要時に図っていきたい。定期的な集まりができることを目指していきたい。</p>		
3 ●	8/28 (金)	真庭市立北房小学校4年生学年支会活動支援(親子)	真庭市立北房小学校	「竹水鉄砲」を作ることにより、竹の素材や鋸で切るという活動への興味関心を養う。	子ども 31人 大人 42人 スタッフ 3人	76
  				<p>目的 「木」や「竹」の特性を理解し、竹水鉄砲づくりを通して豊かな心情と親子、子ども同士の交流を図る。</p> <p>内容 地元の竹を使っでの竹水鉄砲。昔は当たり前で作って遊んでいた「木のおもちゃ」を自分達の力で作る。親子で共に作る活動を通して、親子の協力関係を促す。手作りの竹水鉄砲でみんなで思いっきり水かけをして遊んだ。</p> <p>成果と課題 竹の素材の多様性に気づくことを意図的に仕掛けた。身近な素材であるが、利活用することで、人の生活に役に立つということに気づく子や親が出てきた。親子での交流、子ども同士の遊びの中での学びは、すべて「感じる」ことから始まっている。水びたしになったが、心地良い時間だった。</p>		

4 ●	9/11 (金)	高梁中学校科学部 「木育」活動支援	高梁市立 高梁中学校 理科室	脱炭素、SDGs などの環境学習も 含めた座学と糸鋸を使用しての恐 竜骨格模型の製作。	子ども 42人 大人 3人 スタッフ 2人	47
			<p>目的 地元産の「ひのき」で、恐竜「トリケラトプス」の実物骨格模型を作ることを通して、「ひのき」の特性を知り、「木」に親しむ心情を養う。</p>	<p>内容 高梁中学校科学部は、「木育」にも取り組んでいる。地球温暖化対策や二酸化炭素削減という科学的な取り組みと並行し、ものづくりや「木」と関わり、「木」に親しむことを行っている。恐竜の骨格模型のパーツを糸鋸で切り取り、繋げていくことを行った。</p>	<p>成果と課題 糸鋸での作業を小学校でほとんどしていない現状であった。安全面に配慮しながら、適宜指導を継続的に行った。のこぎりの使い方もあまり知らないという現実。「木」を加工する時の道具の扱い方を学ぶ場は必要であると感じた。</p>	
5 ○	9/15 (火)	「ひのきの香り玉プロジェクト」で、健康の森支援学校との事業見直し	健康の森支援学校	実際の授業を見学し、作業の方法についての指導を行う。今後の活動についての協議を行う。	子ども 32人 大人 5人 スタッフ3人	40
			<p>目的 「ひのきの香り玉プロジェクト」の進捗状況を把握し、健康の森学園の担当教員との協議を行い、無理のないスケジュールを見いだす。</p>	<p>内容 中等部の作業学習と高等部の活動を見学し、コロナ禍での今後の対応について協議を行った。当初の目標が2500個で、磨き上げた「ひのき玉」を市内の保育所や子ども園に設置し、交流を図るという計画であった。しかし、想定外での授業時数の削減により、子ども達に負担をかけることが分かった。</p>	<p>成果と課題 協議した結果、休止することとなった。160個の「ひのき玉」は、既存の「ひのき玉プール」の中に入れ、乳幼児の遊びに活用している。</p>	
6 ●	9/30 (水)	新見南認定子ども園 「移動おもちゃ広場」	南認定 子ども園	考案者の井上慎也氏によるクミノワークショップを子ども達と行った。基本的な遊び方から応用的な遊び方の指導。	子ども 55人 大人 15人 スタッフ 5人	75
			<p>目的 「クミノ」の「つむ」「くむ」「かむ」「のぼす」「とめる」という遊びの基本を、子ども達が遊びの中で体感し、自由な創造力へと繋げていく。</p>	<p>内容 井上慎也さんの「クミノ」の遊び方ワークショップ。初めての「クミノ」との出会いを魅力的にという思いで、プログラム展開を行う。子ども達の「こうしたい」という思いを「カタチ」にしていった。「個」の遊びから「全体」での遊びへと繋げていった</p>	<p>成果と課題 遊びの広げ方についての支援者への講習会の必要性を感じた。子ども達の遊びに介入しすぎず、なおかつ効果的な支援。それには、スキルが必要となる。今後も研修会を適宜開催していきたい。</p>	

<p>● 7</p>	<p>10/1 (木)</p>	<p>新見保育所へ 積み木 1000 ピース 設置とワークショップ</p>	<p>新見保育所</p>	<p>新見産のひのき材で製作した「ひのきの積み木 1000 ピースと箱を設置し、遊び方を指導した。</p>	<p>子ども 89人 大人 15人 スタッフ 3人</p>	<p>107</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>目的 新見産の「ひのき」を使って作った「ひのきの積み木」を設置し、「木」と仲良くなってもらう。</p> <p>内容 豪雨災害で、おもちゃが使えなくなった新見保育所への「ひのきの積み木」1,000 ピースと収納箱 2 箱を設置した。製作者の地元建具屋さんから、身のまわりにある木から「ひのきの積み木」ができていることや「香り」「肌触り」などの特性について話をさせていただく。その後、「ひのきの積み木」を使ったワークショップを行った。4 歳児と 5 歳児に分けての実施となった。</p> <p>成果と課題 新見保育所が「木のおもちゃ」の最初の設置となった。シンプルな形と「個」から「集団」までが自由に遊び込むことができるということも利点である。「ひのきの香り玉プロジェクト」の予算を「ひのきの積み木」に引き継ぐ形となった。順次、他の子ども園、保育所にも設置していく予定である。</p> </div> </div>						
<p>● 8</p>	<p>10/5 (月)</p>	<p>瀬戸内市今城小学校 6 年生への総合学習授業</p>	<p>瀬戸内市立今城 小学校</p>	<p>森林環境学習とキャリア教育を含めた「木育」と「科学」のコラボ授業を行った。</p>	<p>子ども 23人 大人 1人 スタッフ 1人</p>	<p>25</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>目的 6 年生への総合学習のキャリア教育として、林業に関わる人達への理解を深める。</p> <p>内容 10 月 30 日に行う「くむんだー」を中心とした親子支会活動のプレ活動を行った。木のおもちゃや「森林」についての話を行い、森林環境学習に繋げていった。科学的なワークショップも合わせて行った。</p> <p>成果と課題 プレ活動ではあるが、総合学習の中での森林環境学習は初めての体験だった 6 年生。「森林」をより身近に感じ、学べるアクティビティとは、どうあるべきかを考えさせられた。川上と川下、新見と瀬戸内市での森林環境学習のニーズと展開の方法については、系統的にまとめておく必要性も感じた。</p> </div> </div>						
<p>● 9</p>	<p>10/6 (火)</p>	<p>新郷保育園での 「移動おもちゃ広場」</p>	<p>新郷保育所</p>	<p>「木のおもちゃ」を活用した「木育」活動の提案とワークショップ。</p>	<p>子ども 10人 大人 6人 スタッフ 1人</p>	<p>17</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 50%;"> <p>目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。</p> <p>内容 素直で明るい子ども達に、「木のおもちゃ」での自由な遊び空間を提供した。「木のおもちゃ」での遊び体験があまりない子ども達へのワークショップはお互い新鮮である。「クミノ」がまだ配置されていないので、当会の「クミノ」での遊び方レクチャー。冒頭に、巨大シャボン玉遊び。</p> <p>成果と課題 「木のおもちゃ」で活き活きと遊ぶ姿に、先生方も驚かされていた。「くむんだー」のワークも是非取り入れてあげたいと感じた。乳幼児期の「あそび」の中に、感性や「五感」を駆使して遊べる「木のおもちゃ」の存在価値は大きいと思う。</p> </div> </div>						

10 ●	10/8 (木)	高梁中学校科学部 「木育」活動支援	高梁市立 高梁中学校 理科室	恐竜の骨格模型を製作する。型取りは糸鋸で行い、木の特性を活かしながらパーツを組み立てる。	子ども 42人 大人 2人 スタッフ 2人	46
  				<p>目的 ティラノザウルスの骨格模型のパーツを繋げて完成させることにより「木」の質感と特性を体感させる。</p> <p>内容 骨格模型のパーツをつなぎ合わせていく作業を行う。木と木を上手く繋いでいくために、削る部分等、修正していった。「木」の特性を感じながらものづくりの面白さを体感していった。</p> <p>成果と課題 「木」の質感を感じながらの作業は、日常的には体験することがあまりない。中学生達は、「香り」にも着目するようになり、他の「木」についての興味・関心に繋がっていった。県内の「木」の種類やカタチ、色、においなどがわかる教材が手軽に手に入るといいかとも思った。</p>		
11 ●	10/13 (火)	新見南認定子ども園 鉋がけ体験 「移動おもちゃ広場」	新見南認定子ども園	ひのきと杉の木を鉋がけを体験させ、木の香りや質感を味わわせる。大工の仕事についても学ぶ。	子ども 53人 大人 12人 スタッフ 5人	70
 				<p>目的 「ひのき」と「すぎ」の板の鉋削り体験を通して、身近にある「木」の質感や香りを体感させる。</p> <p>内容 地元の木工職人が普段使っている鉋や作業台を持ち寄り、子ども達に鉋削りを実際に体験させた。3人の仕事内容や身近な木がどんな風に生活の中で使われているかを冒頭にお話しをしてもらった。</p> <p>成果と課題 幼児に鉋を持たせるのは危ないという考えではなく、安全に使うための配慮は何かと考えた。特別に支援を必要とする子どもも、適度な緊張感とものづくりの面白さに指導者の指示にきちんと従っていた。「すぎ」と「ひのき」のかんなくずのにおいをかぎ分けることができてきた。</p>		
12 ●	10/14 (水)	真庭市立北房小学校 2学年支会活動支援	真庭市立北房小学校	体育館での「木たごらすいっち」を生活科の授業の中で行い、親子学年支会活動として実施した。	子どものべ 123人 大人 48人 スタッフ 2人	173
  				<p>目的 「木」や身近なものを使って、体育館いっぱい、2年生が考えた「木たごらすいっち」を製作し、創造力を養う。</p> <p>内容 「ピタゴラスイッチ」を「木たごらすいっち」として、子ども達と企画し、当日まで、保護者の方と共に仕掛け作りを行った。全体を4グループ、4ゾーンに分けてのダイナミックな「木たごらすいっち」となった。</p> <p>成果と課題 「木たごらすいっち」の内容については、夏休み中からアイデアを出し合い、全体での動き方の検討を行ってきた。生活科の時間を活用しながらの活動であった。ドミノ倒しや「クミノ」を使った玉転がしのアクティビティは、応用性もあり、発達段階を越えた遊びとしても面白いと感じた。今回は2年生だったが、彼ら、彼女らが6年生になった時の「木たごらすいっち」を見てみたい。</p>		

13 ●	10/15 (木)	大佐認定子ども園 「移動おもちゃ広場」	大佐 B & G 体育館	大佐認定子ども園親子遠足で、「くむんだー」を中心とした「移動おもちゃ広場」を行った。	子ども 82人 大人 90人 スタッフ 1人	173
				目的 「くむんだー」や「木のおもちゃ」で遊ぶことにより、豊かな感性を養う。	内容 親子遠足で、午前中は「自然の中でのネイチャーゲーム」、午後は、体育館での「くむんだー」を中心とした4つのゾーンに分かれての「木のおもちゃ」での遊び活動を行った。	成果と課題 午前中、自然との触れあい活動だったので、午後は、クーリングダウン的な空間としてコーディネートした。親子での活動として適度な緊張感と子育て支援的な意味合いも併せ持つことで、充実した活動となった。
14 ●	10/17 (土)	倉敷市児島児童館 「移動おもちゃ広場」	倉敷市 児島児童館	「移動木のおもちゃ広場」でピタゴラスイッチ的玉転がしの装置を参加者で作って遊んだ。	子ども 28人 大人 5人 スタッフ 2人	35
				目的 ピタゴラスイッチ的玉転がしを、異年齢集団で協力して作ることににより、豊かな創造力を養う。	内容 「木芝居」での導入から始まり、身近なものや木ざれ、積み木等を使った「ピタゴラスイッチ的玉転がし」にトライさせていった。各グループでの製作と全体を通しての玉転がしを交互に取り組みせながら、発表会に展開させていった。	成果と課題 「ピタゴラスイッチ」は、子ども達だけでなく大人も興味があるアクティビティである。玉が転がるだけでなく、下にある玉が上に登っていくしかけや面白く興味を引く転換の仕掛けづくりに夢中であった。「木」で作る繋がり部分をこちらで用意しておくことも考えたい。積み木を3000枚使用した。ひのきの良い香りに包まれた。
15 ●	10/23 (金)	大佐認定子ども園 「移動のおもちゃ広場」	大佐認定 子ども園	「移動木のおもちゃ広場」で、発達段階に合わせた木のおもちゃのワークショップを行った。	子ども 48人 大人 11人 スタッフ 1人	60
				目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。	内容 様々な「木のおもちゃ」を配置し、好きなおもちゃで好きなだけ遊べる空間とした。天気も良く、オープニングは、外での巨大シャボン玉遊びとプリプリスライム。子ども達の興味を引くアクティビティとコラボさせることにより、アミューズメントパーク的な空間を目指している。	成果と課題 幼児期の特性を把握しながらの活動でありたいと考えている。「静」と「動」、「発散」と「集約」。「木育プログラム」の展開の中で、「木」や「森」のお話しも分かりやすく飽きのこない内容とプレゼンにしていきたい。 杉の丸太を切ったものを10枚並べてのじゃんけん大会等、自然物との触れあいが生まれる活動を取り入れたい。

16 ●	10/25 (日)	「第36回都市緑化フェア」 「移動おもちゃ広場」	倉敷市 みらい公園	「鉋削り体験」や「ダビンチの橋」「コロコロ道」、木のおもちゃで家族で楽しんでもらった。	子ども 400人 大人 300人 スタッフ 5人	705
						<p>目的 「にみ木のおもちゃの会」と「岡山県健康の森学園支援学校」のことを倉敷において広く伝える。</p>
<p>内容 「鉋削り体験」「木のおもちゃで遊ぼう」「ピタゴラスイッチ的玉転がし」の3つのブースを行った。岡山県健康の森支援学校の児童生徒の作品も紹介し、アンケートに回答してくださった方にプレゼントした。</p>			<p>成果と課題 倉敷において、「木育」の認知度は新見ほど高くないということがアンケートの結果から分かった。鉋削り体験や「木のおもちゃ」「ピタゴラスイッチ的玉転がし」には、人が集まり、「木」に対する好感度の高さが表れていた。</p>			
17 ●	10/28 (水)	倉敷市子育て広場 「移動おもちゃ広場」	倉敷市 児島市民センタ	お母さんのための「木のおもちゃ」での遊び方講座	子ども 3人 大人 12人 スタッフ 1人	16
			<p>目的 「木のおもちゃ」での遊びを通して、子育ての悩みを話したり、お母さん同士の交流をしたりする場を作る。</p>			
<p>内容 倉敷市児島での子育てグループへの活動支援。「木のおもちゃ」に限定しないで、「あそび」「子育て」といったテーマでの研修会を行った。就学前のこどもや学齢期の子どもを持つお母さん方の悩みに応える形式での会だった。「木のおもちゃ」での交流の仕方についてのレクチャーを展開した。</p>			<p>成果と課題 0歳児から3歳児の子どもを持つお母さん方の会からの依頼が増えてきている。子どもに「木のおもちゃ」で遊ばせたいということよりも、お母さん方同士の情報を共有。大切なことかも知れない。</p>			
18 ●	10/30 (金)	瀬戸内市今城小学校 6年生学年支会活動支援	瀬戸内市今城小学校	親子での「くむんだー」のワークショップを通して、「匠」の技を知り、木に対する理解を深めた	子ども 23人 大人 25人 スタッフ 1人	49
			<p>目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自らが行うことにより、先人の「匠」の技と木組みの素晴らしさを体感する</p>			
<p>内容 6年生親子での支会活動。ペットボトルロケット大会とドラム缶つぶし、巨大シャボン玉も行った。6年生の思い出づくりという先生と保護者の方の願いに応えたカタチである。そして、締めくくりは、「くむんだー」。できるだけ指示しないで、子ども達に活動させることができた。</p>			<p>成果と課題 「くむんだー」の魅力は、ものづくりの醍醐味とも言える。日本の「木」の文化を遊びながら、感じ、学ぶことができる。導入での「森」の話や法隆寺などの木造建築の話などが、効果的に子ども達の胸にストンと落ちていく。素足、素手での活動も子ども達にとって新鮮である。</p>			

19 ●	11/5 (木)	高梁市立巨瀬小学校区 での地域交流活動 「移動おもちゃ広場」	高梁市立巨瀬小 学校	幼稚園、小学校の児童と地域住民 が交流する場。「くむんだー」の ワークショップを行った。	子ども 59人 大人 55人 スタッフ 5人	119
 				目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自らが行うことにより、先人の「匠」の技と木組みの素晴らしさを体感する	内容 地域の公民館が主催した子ども達を中心とした活動。「くむんだー」ワークは、高学年を対象に行う。土台作りから、子ども達の力で取り組ませる。地域のお年寄りが協力してくださったので、「木」のことについてのお話しもしていただくことができた。	成果と課題 「地域の中で子どもは育てる」という視点。「くむんだー」を活用することで、日本の伝統文化や「森林環境学習」を学ぶ良き機会となる。
20 ●	11/17 (火)	瀬戸内市 あいあい保育園 「移動おもちゃ広場」	瀬戸内市 あいあい保育園	「移動木のおもちゃ広場」で、発達段階に合わせた木のおもちゃのワークショップを行った。	子ども 97人 大人 12人 スタッフ 5人	114
   				目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。	内容 0歳児から5歳児までの子ども達の発達段階に合わせ、約80種類の「木のおもちゃ」のワークショップ。先生方と連携し、遊び方のレクチャーを行いながら、子ども達の遊びをコーディネートを行った。	成果と課題 初めての場所での「木のおもちゃ」のワークは、事前の打ち合わせが重要となる。子ども達につけてやりたい力は何か。時間や場所との関係で、それが可能かどうか。様々な状況を加味しながらの最終判断は、経験値から出ささせていただく。子ども目線での会の進行を心がけている。アンケートや先生方への聞き取りが次のワークへ繋がっていく。
21 ●	11/19 (木)	早島子育てサークル 木の実会 「移動おもちゃ広場」	早島町立公民館	この時期に「木のおもちゃで遊ぼう」をテーマに活動をされている。継続した活動となっている。	子ども 15人 大人 13人 スタッフ 2人	30
				目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う	内容 母子サークルのお誕生日会のお楽しみ行事としてのワーク。約40種類の「木のおもちゃ」を持参し、親子での「あそび」の場を設定した。準備から片付けまで、参加された方との共同作業だった。	成果と課題 乳幼児の会では、安全、安心に特に配慮している。おもちゃを「口に入れる」ということを想定し、遊ぶ前のおもちゃの消毒、遊んだ後の消毒、そして、天日乾燥。子ども達がいはいする床面は、お母さん方と事前に拭き掃除。手間暇かけた準備や片付けが、当たり前のようになりつつある。以前は、スタッフで行っていた作業だが、現在は参加者と共に行うことで、安全で楽しめる空間づくりが実現している。

22 ●	11/20 (金)	高梁中学校科学部 「木育」活動支援	高梁市立 高梁中学校 理科室	からくりおもちゃの製作を市販の キットを活用し、竹の素材とのコ ラボに挑戦する。	子ども 42人 大人 1人 スタッフ 1人	44
				目的 「木」「竹」の素材を活かしたからくりおもちゃを製作することにより、ものづくりへの興味関心を持たせる。	内容 木でつくるからくりおもちゃは、手間暇かかるものづくりである。美作現代玩具博物館のからくりおもちゃをそのまま作るのではなく、「竹」とのコラボものづくりに挑戦した。	成果と課題 中学校のカリキュラムの中での「木育」は、環境学習とリンクさせて行っている。学外講師としての情報提供と共同授業による成果は、科学部への小学生の希望調査が20%を越えたことにも表れている。特別支援学級との連携も始まっている。
23 ■ 研	12/4 (金)	木育研修会	備中県民局 別館 2階会議室	岐阜県の「木育 30年」の成果と 課題について、県職員の河合高志 氏を招聘し研修会を開催した。	大人 11人 スタッフ 4人	15
				目的 ぎふ木遊館を核とした木育の推進と深化～ぎふ木育のこれまでとこれから～を知ることにより、「木育」推進に活かす。	内容 岐阜県林政部「ぎふ木遊館」企画運営係長、河合高志氏を招聘し、「ぎふ木育30年」の取り組みについての研修を行った。独自の林業施策を展開している「木育先進県」の現状と課題についてグループ討議を含め、有意義な会となった。備中県民局管内以外の市町村からの参加もあった。	成果と課題 「木育先進県」の取り組みは、新鮮で、岡山県でも取り組みが可能であると実感した。行政、教員、他市の市議会議員、当会の会員との交流も今後の展開に希望を持たせてくれた。現在、北海道の「木育」プログラムを参考に、自然体験を含めた指導者養成のための研修会を計画している。情報を共有し、情報を発信していく「木育ネットワーク」の構築を目標としていきたいと考えている。
24 ●	12/7 (月)	高梁中学校科学部・支 援学級クリスマスリ ースづくり支援	高梁市立 高梁中学校 理科室	健康の森支援学校近くで採った蔦 を使ってのクリスマスリースづく りを行い、玄関に設置した。	子ども 22人 大人 2人 スタッフ 1人	25
				目的 蔦を使ってクリスマスリースを作ることによって、ものづくりの楽しさを体感する。	内容 「蔦」を効果的に使ってのクリスマスリースづくり。科学部だけではなく、特別支援学級での授業でのものづくり。太く、長い蔦を円形にまとめ、装飾していった。できたクリスマスリースは、校舎に飾り付け、公開した。	成果と課題 科学部から特別支援学級へと「木」でのものづくりが波及していった。正規の授業としておこなっていくためには、アクティビティとしてのねらいや内容についての精査が必要となってくる。研究を進めていきたい。


25 ●	12/8 (火)	大佐総合センター 「移動おもちゃ広場」	大佐 総合センター	子ども園に子どもが通う母親達からの依頼により実現した。木のおもちゃで遊びたいという願い。	子ども 25人 大人 31人 スタッフ 5人	61
  				目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う	内容 大佐認定子ども園での「木のおもちゃ広場」が好評で、リクエストが大佐公民館に届き、今回が実現。場所は2階。荷物の搬入と搬出も参加者で行った。和室と洋室の2会場に、「アクティブなおもちゃ」と「静かに遊ぶおもちゃ」を配置した。	成果と課題 一度体験し、子ども達からもそうだが、お母さん方からのリクエストをいただくことか増えてきている。日頃、触れることのない「木のおもちゃ」での新鮮な感動が、次の遊びへと繋がっている。
26 ●	12/14 (月)	瀬戸内市 あいあい保育園 子ども支援員研修会	瀬戸内市 あいあい保育園	「くむんだー」を通しての遊び方を子ども達の発達段階と照らし合わせながら研修した。	子ども 42人 大人 12人 スタッフ 1人	55
  				目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自らが行うことにより、先人の「匠」の力と木組みの素晴らしさを体感する	内容 子ども達とは「くむんだー」でのワーク。その様子を瀬戸内市の社会福祉協議会の職員が視察研修を行った。ワーク後、職員に「子どものあそび」についてのレクチャーを行った。	成果と課題 行政や子どもに関わる施設、子育て支援員、保健師、助産師などとの連携も進んでいる。子ども達が集まる場所でのワークは、子育て支援ネットワークを構築していくのに最適な空間と言えるかもしれない。瀬戸内市は「外遊び」を積極的に推奨し、「プレーカー」を配備し、市内の子ども園等への支援を行っている。連携した取り組みを目指したい。
27 ●	12/21 (月)	哲多子育て広場 クリスマス会 「移動おもちゃ広場」	哲多子育て広場	プラスチックの遊戯物が多い施設。木のおもちゃで遊ばせたいという思いで実現した。	子ども 16人 大人 18人 スタッフ 1人	35
 				目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。	内容 哲多子育て広場でのクリスマス会。「木のおもちゃで遊ぼう」をテーマにした会をコーディネートした。「木のおもちゃ」を約40種類持参した。「ままごと遊び」「積み木」「動くおもちゃ」「音の出るおもちゃ」のゾーンを設定し、親子での交流が図れるようにした。	成果と課題 親子での「木のおもちゃ」でのあそびの中で、子どもに対する声かけや、眼差し、お母さん方の動きが温かい。「木」という素材が「安心感」と「心の安定」を生み出していると言われたのは、この施設の所長さんだった。幼児とその養育者を対象とした「木育」の効果を客観的な指標で表し、検証していくことに取り組んでいきたい。

28 ●	1/13 (水)	神郷公民館主催行事 放課後児童クラブ葉脈葉づくり	新見市神代小学校	森林環境学習の一環として、木の幹や枝、葉のことについて学習し、葉脈葉づくりを行った。身近な木や植物についての興味を持たせた	子ども 10人 大人 3人 スタッフ 1人	14
				<p>目的 葉脈葉を作ることにより、「葉」の構造を知り、「木」や植物に関心を持つ。</p>	<p>内容 葉肉を溶かす作業は低学年が対象なので省いた。あらかじめ葉肉を溶かした状態の葉を提示し、基の葉との違いを説明した。色を付け、ラミネートフィルムでの葉づくりを行った。</p>	<p>成果と課題 ものづくりのアクティビティは、多種多様にある。発達段階や子ども達の興味関心を事前にリサーチしておくことの重要性も感じた。今回のワークは、子ども達にとって初体験で好評であった。</p>
29 ●	1/23 (土)	早島町わかみや保育園 「移動おもちゃ広場」	早島町わかみや保育園	「くむんだー」ワークを4.5歳児を対象に行った。0歳児～3歳児にも木のおもちゃ遊びを行った。	子ども 29人 大人 4人 スタッフ 1人	34
				<p>目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自ら行うことにより、先人の「匠」の技と木組みの素晴らしさを体感する</p>	<p>内容 子ども達と共に部材を運び、自分達の手で組み上げていった。時間はかかったが、やり遂げたという満足感と自己達成感の表情が見て取れた。片付けも子ども達が協力して行うことができた。</p>	<p>成果と課題 「木」は生きている。貫と呼ばれる柱に通す長い木は、木づちで叩いていると傷がつき、「ささくれ」てくる。木を不用意に握って擦らせると手にとげが立つことがある。子ども達には、掴んだら擦らせないということを最初に徹底して教え込む。すると、一人も手に刺さる子はいない。適度な緊張感と集中力の賜である。</p>
30 ●	1/23 (土)	早島町かんだ保育園 「移動おもちゃ広場」	早島町かんだ保育園	「くむんだー」ワークを4.5歳児を対象に行った。0歳児～3歳児にも木のおもちゃ遊びを行った。	子ども 33人 大人 5人 スタッフ 1人	39
				<p>目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自ら行うことにより、先人の「匠」の技と木組みの素晴らしさを体感する</p>	<p>内容 5歳児33人。2グループに分けずに活動を行った。杉の丸太の輪切りを入りに配置し、裸足でその上を歩いて入っていくこととした。自然な流れの中で、「くむんだー」ワークを展開することができた。</p>	<p>成果と課題 「くむんだー」の中を喜々として動き回る子ども達の姿に、先生方も驚かされていた。自然の中での保育活動の重要性は分かっているけれども、なかなか実施できない。室内でも子ども達の協調性、ものづくりの心を養うことができる。</p>

31 ●	2/3 (水)	ひのきの積み木贈呈 草間台保育所呈 「移動おもちゃ広場」	草間台保育所	ひのきの積み木 750 ピースと収納箱を贈呈し、子ども達と「積み木遊び」をして交流した。	子ども 25人 大人 11人 スタッフ 3人	39
 				目的 新見産の「ひのき」を使って作った「ひのきの積み木」を設置し、「木」と仲良くなってもらおう。	内容 「ひのきの積み木」でのワークショップを行った。子ども達に自由な発想で積み木遊びをまずしてもらおう。子ども達の中に入っての支援、子ども達が知らないカタチを作っていく。徐々に子ども達が集まってきたところで、ドミノや大きい家に取りかかる。「個」から「集団」での積み木遊びへと自然な流れで繋げていった。	成果と課題 草間台保育所が2園目となる「ひのきの積み木」の設置。「木のおもちゃ」の種類も設置もあまりない園での「ひのきの積み木」は、子ども達の反応が鋭く、面白い。
32 ■ 研	2/3 (水)	草間台保育所職員研修	草間台保育所	親子参観日での「木のおもちゃ」での遊び方のレクチャーを、職員を対象に行った。	大人 4人 スタッフ 1人	5
 				目的 指導者に「木のおもちゃでの遊び方」のレクチャーと実技講習を行うことにより、子ども達と保護者の親子間交流を充実させる。	内容 親子参観日に当会が出向けないため、先生方への「木のおもちゃ」の遊び方のルーティーンと言葉掛けについての研修を行った。こんな遊びをしたいというニーズを大切にしたい。	成果と課題 「クミフ」や「ひのきの積み木」に関しては、指導者への研修会の必要性を感じる。シンプルな形のため、自由な発想で様々な形への造形活動へと繋がっていく。ただ、基本的な組み方や繋げ方を指導者が身に付けていると、子ども達の豊かな発想と呼応し、想定外の造形活動へと繋がる可能性もある。子ども目線での保育を実践していく力となり得る。
33 ●	2/5 (金)	新砥保育所親子参観日 「移動おもちゃ広場」	新砥保育所	遊びの中で学べる森林環境学習を冒頭に行った。「くむんだー」を中心に木のおもちゃで交流した。	子ども 14人 大人 18人 スタッフ 1人	33
 				目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自らが行うことにより、先人の「匠」の技と木組みの素晴らしさを体感する	内容 保育所での親子参観日。土台づくりは、保護者の方に協力していただいた。大まかな柱立てをした後で、子ども達に自由な活動を促していく。2歳児も下の方で、木づちを上手に使っての作業。	成果と課題 「くむんだー」のワークで特長的なことは、アクティブで時に先生方からよく注意される子ども達の活躍する度合いが多いということ。それも肯定的な評価へと繋がっているということである。声かけや率先して動くことが、全体としてプラスに作用している。先生方の子ども観が明らかに変わってきている。

34	2/13 (土)	「くむんだー」 ワークショップ 「移動おもちゃ広場」	新見市学童保育 「子どもリパ リック」	森林環境学習後、「くむんだー」 ワークショップ を行った。 準 備から片付けまでを共に行った。	子ども 23人 大人 18人 スタッフ 4人	4 5
 				<p>目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自らが行うことにより、先人の「匠」と木組みの素晴らしさを体感する。</p>	<p>内容 土曜日の学童保育での「くむんだー」ワーク。会場が2階にあるため、部材を運ぶ距離は遠いが、子ども達が協力して運び込んだ。大型の構造物での遊びは未経験なため、最初とまどいもあったが、徐々に活動の中へ入ってきた。</p>	<p>成果と課題 最初、声の出ない状態だったが、作業をしていると自然に声かけができるようになってくる。一人では進まないのである。そこがまた値打ちのあるところかもしれない。</p>
35	2/20 (土)	「くむんだー」 ワークショップ 「移動おもちゃ広場」	高梁市 落合学童保育	森林環境学習後、「くむんだー」 ワークショップ を行った。 準 備から片付けまでを共に行った。	子ども 7人 大人 4人 スタッフ 2人	1 3
 				<p>目的 「くむんだー」の準備から組み立て、片付けまでを子ども達自らが行うことにより、先人の「匠」と木組みの素晴らしさを体感する</p>	<p>内容 1年生から4年生までの7人での「くむんだー」ワーク。準備から片付けまで子ども達だけで行った。組み立てた後、10分間は、遊ばせてあげた。片付けも含め、1時間20分。協力した活動ができた。</p>	<p>成果と課題 4年生の男の子が1人いたので、最年長ということで、棟梁に任命。下級生で元気のよい子がいても、最上級生に。内気な性格だったが、「棟梁」と頼りにしてみんなが呼ぶうちに、自分から声かけをし、率先して力仕事を引き受けていた。結果論ではあるが、彼のやる気スイッチを押したことになった。</p>
36	3/10 (水)	哲西認定子ども園 ヒノキの積み木設置 「移動おもちゃ広場」	哲西 認定子ども園	ひのきの積み木 1000 ピースと収 納箱を設置し、子ども達と「積み 木遊び」をして交流した。	子ども 36人 大人 8人 スタッフ 3人	4 7
 				<p>目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。</p>	<p>内容 3歳児、4歳児、5歳児を対象にしての会であった。異年齢集団での「積み木」ワークショップにレールセットや子ども達の発達段階に合わせた「木のおもちゃ」を4ブースに分けて活動した。</p>	<p>成果と課題 プラスチックのおもちゃはあるが、「木のおもちゃ」はないという園であった。「木」の香りに触れるところから始まり、音遊びから個人の造形活動へと展開させていった。先生方との交流も有意義で、子ども達により楽しい遊び方を教えたいという願いに応えていきたい。</p>

37 ●	3/11 (木)	倉敷市新田親和 子育てグループ 「移動おもちゃ広場」	倉敷市新田親和 公民館	0歳～3歳児の母子グループからの 依頼。おもちゃを通しての子育 てについての話もいれながらのプ ログラム展開を行う。	子ども 12人 大人 13人 スタッフ 3人	28				
				<p>目的 乳幼児の母親達が互いの子育てについて普段着感覚で話せ、子ども達と「木のおもちゃ」で遊ぶ中で、温かい親子関係を育む。</p>	<p>内容 倉敷市にある16母子グループの1団体。今年度最終の活動日。保健師も来られ、活動の総括もできた。ただ、「木のおもちゃ」で遊ぶだけではなく、子育てのことについての話や、子どもと一緒にのアクティビティも交えながらの活動展開とした。</p>			<p>成果と課題 0歳児から3歳児までが9人だった。自分の子どもだけでなく、ひみんなと共に遊ぶ空間が居心地の良いものになるようにしていきたいと考えている。最後の振り返りの「バンジーチャイム」、こころが一つになるようにしている。そして、子どもをしっかりとハグすること。</p>		
38 ●	3/19 (金)	大佐認定子ども園 ひのきの積み木設置 「移動おもちゃ広場」	大佐認定 子ども園	ひのきの積み木1500ピースと取 箱を設置し、子ども達と「積み木 び」をして交流した。	子ども 38人 大人 6人 スタッフ 2人	46				
				<p>目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。</p>	<p>内容 3歳児、4歳児、5歳児を対象にしたワークショップを設置後に行った。異年齢集団での発達段階に合わせた「積み木」ワークショップ。片付け等も含めた基本的な遊び方のレクチャーも行った。</p>			<p>成果と課題 基本的な「積み木遊び」の指導者がいなくて、子ども達は自由な発想で遊んでいた。個から集団への「積み木遊び」を通してのアプローチの仕方について、先生方に伝達講習的な支援を行った。遊びの広がり見られるようになった。</p>		
39 ●	3/22 (月)	神代認定子ども園 ひのきの積み木設置 「移動おもちゃ広場」	神代認定 子ども園	ひのきの積み木1500ピースと取 納箱を設置し、子ども達と「積 み木遊び」をして交流した。	子ども 15人 大人 3人 スタッフ 2人	20				
				<p>目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。</p>	<p>内容 4歳児、5歳児を対象にしての会であった。「ひのきの積み木」での「個」から「集団」への移行する過程を先生方に見ていただいた。「クミノ」と「ひのきの積み木」の効果的な使い方についてレクチャーをし、大きな家を作り上げることができた。</p>			<p>成果と課題 卒園した後のワークショップであった。5歳児が積極的に「積み木遊び」に参加することができていた。「個」での遊びをしっかりと時間をかけて行うことにより、全体での活動が円滑に行うことができた。</p>		

40 ●	3/25 (木)	本郷保育所 ひのきの積み木設置 「移動おもちゃ広場」	本郷保育所	ひのきの積み木 1500 ピースと収納箱を設置し、子ども達と「積み木遊び」をして交流した。	子ども 22人 大人 4人 スタッフ 2人	28
				目的 「移動おもちゃ広場」を開催することにより、木に触れ、木に親しませる。豊かな感性を養う。	内容 3歳児、4歳児、5歳児を対象にしての会であった。「ひのきの積み木」での「個」から「集団」への移行する過程を先生方に見ていただいた。「積み木遊び」を保育の中で取り入れられており、各児童が思い思いの遊び方を見つけ出していた。	成果と課題 卒園式後ではあったが、卒園生も参加し、新見産のひのきの積み木に触れ、「森への入り口」を体験することができた。大工さんの仕事についてのお話しも有り、子ども達は、実際に木の香りや手触りを体感することができた。

- 「移動おもちゃ広場」及び「ものづくりワークショップ」は、25回、1,908人
- 「くむんだー」ワークショップは、9回、560人
- 研修会、指導者養成等 3回、32人

総計 37回 2500人